

共通教育

共通教育の目標と内容

本学の教育の目標は、高度で普遍的な教養を身につけ、専門的な知識・技術を修得した行動力のある専門的知識人・技術者を育成することにあります。大学教育は、共通教育と専門教育によって編成されていますが、共通教育の目標は、1) 社会人として必要な高い倫理性と責任感を持ち、自然及び文化について深い理解を培い、現代社会のニーズに柔軟に対応できる感性豊かな人間性を涵養すること、2) 現代社会を理解する上で必要な幅広い知識と深い洞察力を養い、主体的かつ総合的に考え、的確に判断・創造できる人材を育成することであり、この目標を達成するために、下記のような**共通教育科目**を設けています。

1. 教養コア科目

「教養コア科目」は、大学教育の教育目標である「人間性の教育」と「社会性・国際性の教育」を達成するために設置された科目群であり、大学生として、或いは卒業・修了後の社会人としても必要となる知識・技法を修得し、良識ある一個人として社会で活躍できる素地となることを目指す「共通科目」と「主題科目」から構成されています。

(1) 共通科目

大学生及び社会人として必要な情報処理技法の修得、日本語及び外国語による論理的な思考や実践能力の涵養、健全な心と体の創造を教育目標とします。

①「大学入門セミナー」(2単位)

大学で学ぶための心構え(たとえば、大学や学問の意義、人生設計の指針など)や種々の技能(日本語によるコミュニケーション、学習の方法、論理的な考え方、文章のまとめ方、表現の方法など)の習得を目標とする科目です。

②「情報科学入門」(2単位)

コンピュータを用いて文書を作成したり、データを図表などによって表現する方法を習得することを目標とする科目です。また、コンピュータのネットワークを利用して情報を受信・発信する能力を身につけます。

③「英語」(4または2単位)

1年次は英語の基本技能養成を目標に置き、e-learningを積極的に活用し、基本技能(語彙力・文法力)の養成を目指します。2年次は、1年次に育成した基本技能を発展させるとともに、引き続きe-learningも積極的に活用しながら、専門教育との接続を視野に入れた応用技能養成を目標とします。

④「コミュニケーション英語」(2単位)

コミュニケーションに資する会話力・自己表現力の養成及び英文読解力の養成を図ることを目標とします。

⑤「初修外国語」(4または2単位)

英語以外の外国語を履修することにより、言語の多様性や共通性などの言語感覚を養い、言語が様々な文化の媒体であり、また文化そのものであることを理解することを目標とします。

⑥「保健・体育」(2または1単位)

身体発達の成熟・完成期にある大学生として、直接的な身体経験であるスポーツという文化を理解し、健康保持と増進及び生涯スポーツの基盤の形成を目標とします。

(2) 主題科目

倫理・文化・社会及び自然に関する科目を修得することで、広範な分野から幅広い知識を養い、主体的かつ総合的に考える素地を育成することを目標とします。

①「環境と生命」(4単位)

現代社会がもたらした環境破壊、その対策としての環境保全の概念について種々の異なる観点から理解し、また、近年急速に進歩している生命科学について多分野から学ぶことで、環境・生命科学に関する視野を広げることを目指す科目です。

②「倫理と文化」(4単位)

幅広い分野を学ぶことで、複雑・多様な現代社会に対処するための高い倫理観と責任感を育み、様々な思想、文学、芸術や異文化に触れることにより、豊かな人間性を涵養し、人間への理解と共感或いは自らの倫理的・文化的人間としての視座の確立を目指す科目です。

③「現代社会の課題」(4または2単位)

現代社会を正しく認識するための基本的な各種の視点を獲得し、現代社会の構造及びその諸問題に関して誤りなく判断できる能力を育て、それと共に社会の公平性への視座を確立することを旨とする科目です。

④「自然の仕組み」（4または2単位）

これまでの人類の歴史の中で、自然科学が明らかにしてきた人を取り巻く自然の仕組みを正しく理解し、科学と技術が持つ力と可能性或いは意味とを多様な面から判断する能力を育てることを目指す科目です。

2. 教養発展科目（6単位）

学生が各自の興味と関心に沿って、教養をより一層深め・広げることを目指す科目群で、原則として自由に選択することができます。なお、「教養発展科目」には以下の系列があります。

- ①文化・社会系、②科学・技術系、③生命科学系、④複合・学際系、
⑤キャリア教育・生涯学習系、⑥外国語系

3. 共通教育科目の履修方法について

共通教育科目は、次の一覧表及び後に掲げる表により指定された単位数を履修します。

表1 共通教育科目一覧表

区 分	科 目 群	教育文 化学部	医 学 部		工学部	農学部	
			医学科	看護学科			
教養 コア 科目	共通 科目	大学入門セミナー	2	2	2	2	2
		情報科学入門	2	2	2	2	2
		英語	4	4	2	4	4
		コミュニケーション英語	2	2	2	2	2
		初修外国語	4	2	2	4	2
		保健・体育	2	1	1	2	2
	小計		16	13	11	16	14
	主題 科目	環境と生命	4	4	4	4	4
		倫理と文化	4	4	4	4	4
		現代社会の課題	4	2	2	4	4
		自然の仕組み	4	4	2	4	4
	小計		16	14	12	16	16
	教養発展科目	文化・社会系	6	6	6	6	6
		科学・技術系					
生命科学系							
複合・学際系							
キャリア教育・生涯学習系							
外国語系							
小計		6	6	6	6	6	
共通教育科目単位数計		38	33	29	38	36	

※ 教養コア科目と教養発展科目では、学びやすい環境を確保するため、教室サイズなどを勘案し適正なクラス規模に調整することがあります。そのため、希望どおりの科目が受講できない場合もあります。

(1) 「大学入門セミナー」

大学入門セミナーは、1年次の前学期に開講されます。授業時間及びクラス編成は各学部、各学科・課程ごとに決定されますので、所属学部の指示に従って受講してください。

(2) 「情報科学入門」

情報科学入門は、1年次の前学期に開講されます。授業時間及びクラス編成は各学部、各学科・課程ごとに決定されますので、授業時間割で確認、または所属学部の指示に従って受講してください。

(3) 「英語」及び「コミュニケーション英語」

次の表に掲げる授業科目から、クラス区分の指定により、1年次前学期に2科目2単位、1年次後学期に2科目2単位、2年次に2単位、合計6単位を履修します。(医学部看護学科は1年次のみ4単位)

表2 英語及びコミュニケーション英語の授業科目と単位の認定

学部区分		1年次前学期		1年次後学期	
		授業科目	認定単位	授業科目	認定単位
教育文化学部		英語 1E	1	英語 2E	1
		コミュニケーション英語 1Ec 又は 2Ec	1	コミュニケーション英語 1Ec 又は 2Ec	1
医学部	医学科	英語 Ma1	1	英語 Ma2	1
		コミュニケーション英語 Mc1	1	コミュニケーション英語 Mc2	1
	看護学科	英語 N1	1	英語 N2	1
		コミュニケーション英語 Nc1	1	コミュニケーション英語 Nc2	1
工学部		英語 1T	1	英語 2T	1
		コミュニケーション英語 1Tc 又は 2Tc	1	コミュニケーション英語 1Tc 又は 2Tc	1
農学部		英語 1A	1	英語 2A	1
		コミュニケーション英語 1Ac 又は 2Ac	1	コミュニケーション英語 1Ac 又は 2Ac	1
		2年次前学期		2年次後学期	
教育学部	工学部	英語3 又は 英語4	1	英語3 又は 英語4	1
農学部	医学部 (医学科)	英語 Mb1	1	英語 Mb2	1

注1. 英語は各学期毎に単位認定を行い、通年の単位認定は行いません。

注2. 英語の再受講に関する手続きについては、ホームページあるいは掲示板に別途掲載します。

(4) 「初修外国語」

独語、仏語、中国語又は韓国語から1外国語を選択した上で、次の表に掲げる授業科目から学部区分の指定により、1年次で2科目4単位を履修します。

ただし、医学部(医学科・看護学科)及び農学部は、1年次で1科目2単位を履修します。

表3 独語・仏語・中国語及び韓国語の授業科目と単位の認定

学部区分	1年次全学期							
	授業科目	認定単位	授業科目	認定単位	授業科目	認定単位	授業科目	認定単位
教育文化学部	独語E1	2	仏語E1	2	中国語E1	2	韓国語E1	2
	独語E2	2	仏語E2	2	中国語E2	2	韓国語E2	2
医学部	独語MN	2	仏語MN	2	中国語MN	2	韓国語MN	2
工学部	独語T1	2	仏語T1	2	中国語T1	2	韓国語T1	2
	独語T2	2	仏語T2	2	中国語T2	2	韓国語T2	2
農学部	独語A	2	仏語A	2	中国語A	2	韓国語A	2

注1. 通年で単位認定を行い、各学期毎の単位認定は行いません。

注2. 再受講は、どのクラスで受講してもかまいません。

ただし、仏語の場合、学部を示すアルファベットの次の数字1と2は、それぞれ文法と会話を意味しているため、同一数字の組み合わせ(例: E1とT1)で履修することはできません。

詳細については、ホームページあるいは掲示板に別途掲載します。

『英語及びフランス語の認定』

- ① 英検1級に合格した場合、あるいはTOEIC試験で730点以上、またはTOEFL試験(PBT)で550(CBTでは213、iBTでは79)点以上を取得した場合には、申請により本学の成績に点数化した上で、「英語D」2単位及び「コミュニケーション英語D」2単位(合計4単位)として認め、各学部毎(医学部は除く)に該当する外国語科目(「英語」:1E+2E; 1T+2T; 1A+2A、及び「コミュニケーション英語」:1Ec+2Ec; 1Tc+2Tc; 1Ac+2Ac)の単位に充てます。
 また英検準1級に合格した場合、あるいはTOEIC試験で650~729点、またはTOEFL試験(PBT)で500(CBTでは173、iBTでは70)点~549(CBTでは212、iBTでは78)点を取得した場合には、本学の成績に点数化した上で、「英語D」2単位として認め、該当する外国語科目(「英語」:1E+2E; 1T+2T; 1A+2A)の単位に充てます。
 ただし、単位の認定を申請する場合の申請期間は、前学期分が4月4日から4月15日まで、後学期分が9月20日から9月30日までとします。
- ② 本学入学以前に仏検4級以上に合格している場合は、申請により本学の成績に点数化した上、仏語D4単位として認め、該当する外国語科目の単位に充てます。申請期間は、4月4日から4月15日までとします。
- ③ 上記の単位認定を申請する場合は、受験した検定試験等の試験結果の証明書を所属する学部の教務・学生支援係(医学部は学生支援課)に提出してください。

表4 英語及びフランス語の検定試験等による単位の認定

学部区分	対象とする学修		認定科目	認定単位	
教育文化学部	実用英語技能検定(英検)	1級	英語D コミュニケーション英語D	2	4
	TOEIC試験	730点以上		2	
	TOEFL試験(PBT/CBT/iBT)	550/213/79点以上			
工学部 農学部	実用英語技能検定(英検)	準1級	英語D	2	
	TOEIC試験	650点~729点			
	TOEFL試験(PBT/CBT/iBT)	500/173/70~ 549/212/78点			
全学部	フランス語技能検定(仏検)	4級以上	仏語D	4	

(5)「保健・体育」

次の表に掲げる授業科目から、学部区分の指定により履修します。

表5 「保健・体育」の開講コースと履修の学部区分

学部区分	1年次前学期		1年次後学期	
	授業科目(コース)	認定単位	授業科目(コース)	認定単位
教育文化学部	スポーツ科学Ⅰ	1	スポーツ科学Ⅱ	1
医学部	医学科	健康科学	—————	—————
	看護学科	スポーツ科学	—————	—————
工学部	健康科学Ⅰ又は スポーツ科学Ⅰ	1	健康科学Ⅱ又は スポーツ科学Ⅱ	1
農学部	スポーツ科学	1	健康科学	1

(6) 「環境と生命」

次の表に掲げる授業科目から、学部区分の指定により、履修します。

表6 「環境と生命」の授業科目と履修の学部区分

学部区分	1年次前学期			1年次後学期		
	群	授業科目	認定単位	群	授業科目	認定単位
教育文化学部	II	環境を考える	2	I	生命を知る	2
医学部	I	生命を知る	2	II	環境を考える	2
工学部	I	生命を知る	2	II	環境を考える	2
農学部	II	環境を考える	2	I	生命を知る	2

注. 年度ごとの開講科目、クラス、担当教員はその年度の共通科目授業時間割を参照してください。

(7) 「倫理と文化」

次の表に掲げる授業科目から、学部区分の指定により履修します。

各学部の学生は、I群から1科目、II群から1科目、計2科目（4単位）を選択履修します。

表7 「倫理と文化」の授業科目と履修の学部区分

※注意：下表に掲げる授業科目は、年度により変更されることがあります。次年度以降の開講科目については、当該年度の授業時間割及びシラバスを参照してください。

学部区分	1年次前学期			1年次後学期		
	群	授業科目	認定単位	群	授業科目	認定単位
教育文化学部 医学部 農学部	I	人間の心と行動	2	II	人間と倫理 I	2
		子どもとおとな	2		人間と倫理 II	2
		日本の文学	2		西洋の哲学	2
		美術と文化	2		人間の倫理と哲学	2
		音楽と人間	2		医療倫理史	2
		暮らしを見つめる	2			
		南アフリカ概論 イスラム文化論	2 2			
工学部	II	人間と倫理 I	2	I	人間の心と行動	2
		人間と倫理 II	2		日本語と文化	2
		西洋の哲学	2		美術と文化	2
		人間と自我	2		音楽と人間	2
					暮らしを見つめる	2

(8) 「現代社会の課題」

次の表に掲げる授業科目から、学部区分の指定により、下記1～3にしたがって履修します。

1. 教育文化学部、工学部及び農学部の学生は、I群から1科目、II群から1科目、計2科目（4単位）を選択履修します。
2. 医学部医学科の学生は、I群、II群から1科目（2単位）を選択履修します。
3. 医学部看護学科の学生は、I群の「現代社会と家族」（2単位）を全員必修とします。なお、クラス指定となっていますので時間割に従ってください。

表8 「現代社会の課題」の授業科目と履修の学部区分

※注意：下表に掲げる授業科目は、年度により変更されることがあります。次年度以降の開講科目については、当該年度の授業時間割及びシラバスを参照してください。

学部区分	1年次前学期			1年次後学期		
	群	授業科目	認定単位	群	授業科目	認定単位
教育文化学部 農学部	I	風土・地域と人間	2	II	現代社会と政治	2
		現代社会と歴史	2		現代社会と法	2
		現代社会と家族	2		現代社会と経済	2
		現代社会と子供・青年	2			
医学部 (医学科)	I	風土・地域と人間	2			
		現代社会と歴史	2			
		現代社会と家族	2			
		現代社会と子供・青年	2			
	II	現代社会と政治	2			
		現代社会と法	2			
現代社会と経済	2					
医学部 (看護学科)	I	現代社会と家族	2			
工学部	II	現代社会と政治	2	I	風土・地域と人間	2
		現代社会と法	2		現代社会と歴史	2
		現代社会と経済	2		現代社会と家族	2
					現代社会と子供・青年	2

(9) 「自然の仕組み」

次の表に掲げる授業科目から、学部区分の指定により、下記1～3にしたがって履修します。

1. 教育文化学部、医学部医学科及び農学部の学生は、I群、II群及びIII群の異なる群から計2科目（4単位）を選択履修します。同じ群から2科目を履修しても卒業の認定単位になりませんので、必ず、異なる群から1科目ずつ計2科目を選択して履修してください。
2. 医学部看護学科の学生は、I群、II群及びIII群から、1科目（2単位）を選択履修します。
3. 工学部の学生は、I群の「数学の考え方」及びII群の「物理科学」を全員必修とし、計2科目（4単位）を履修します。

表9 「自然の仕組み」の授業科目と履修の学部区分

※注意：下表に掲げる授業科目は、年度により変更されることがあります。次年度以降の開講科目については、当該年度の授業時間割及びシラバスを参照してください。

学部区分	1年次前学期			1年次後学期		
	群	授業科目	認定単位	群	授業科目	認定単位
教育文化学部	I	数学の考え方	2	I	自然科学の考え方	2
					数学の考え方	2
	II	物理科学	2	II	物質の科学	2
					III	生物科学
医学部	I	数学の考え方	2	I	自然科学の考え方	2
					数学の考え方	2
	II	物理科学	2	II	物質の科学	2
					III	生物科学
工学部	I	数学の考え方	2	—	—	—
	II	物理科学	2			
農学部	I	数学の考え方	2	I	自然科学の考え方	2
					数学の考え方	2
	II	物理科学	2	II	物質の科学	2
					III	生物科学

(10) 教養発展科目

次の表10に掲げる開講科目から、原則として2年次（医学部学生は、1年次から履修可能）の前学期及び後学期に各学部・学科（課程）が定める単位数以上を履修します。選択の便宜のために文化・社会系、科学・技術系、生命科学系、複合・学際系、キャリア教育・生涯学習系及び外国語系に区分して表示されていますが、系の区分に関わりなく自由に選択できます。

ただし、医学部の医学科及び看護学科の学生は、下表に掲げる科目の内、必修を課している科目がありますので注意してください（下表の注を参照）。

また、新たに追加された授業科目が開講される場合は、それらも選択することができます。

さらに、表11の放送大学を利用した教養発展科目を履修すると教養発展科目として単位が認定されます。

表10 教養発展科目

※注意：下表に掲げる授業科目は、年度により変更されることがあります。次年度以降の開講科目については、当該年度の授業時間割及びシラバスを参照してください。

系	前学期開講科目	認定単位	後学期開講科目	認定単位
文 化 ・ 社 会	宮崎県の経済と地域の活性化	2	中小企業と宮崎	2
	日本国憲法	2	日本国憲法	2
	現代社会と基礎理論	2	現代社会と基礎理論	2
	魚・家畜・草の文化論	2	教育と人間	2
	産業と教育	2	科学の社会学	2
	保健医療社会学	2	現代社会を読み解く	2
	ワークショップ入門	2	大学と学生	2

系	身のまわりの生活論	2	●宮崎の郷土と文化 (コーディネート科目)	2
科学・技術系	化学と社会との関わり	2	水を主題とする一般化学	2
	統計入門	2	原子と原子核入門	2
	大気・海洋の流れ・波動	2	◆統計学入門	2
	音・光で考える物理学入門	2	宮崎の産業と産学連携	2
	科学技術と私たちの生活	2	産業を支える化学の役割	2
	化学入門 – 電子のいたずら–	2	エネルギー環境学入門	2
	宮崎の地質と自然景観	2	情報とコンピュータ	2
	微分積分学	2		
生命科学	遺伝子操作入門	2	光と植物	2
	遺伝子とゲノム	2	染色体の行動と遺伝	2
	感覚と神経	2	生命と病気	2
	生物研究入門	2	放射線と病気	2
	★医学実験動物学	2		
複合・学際系	日本の自然と災害	2	日本の自然と災害	2
	フィールド体験講座	2	フィールド体験実践講座	2
	フィールド体験学習指導講座	2	(※1年次生より受講可)	
	▲異文化交流体験学習 (※1年次生より受講可)	2	▲異文化交流体験学習 (※1年次生より受講可)	2
			国際協力入門 –世界を舞台に活躍する–	2
・キャリア学 習教育	生涯スポーツ実践Ⅰ	1	生涯スポーツ実践Ⅲ	1
	生涯スポーツ実践Ⅱ	1	生涯スポーツ実践Ⅳ	1
	ヘルスサイエンス –予防医学へのいざない–	2	■ライフデザイン・キャリアデザイン入門 (※1年次生のみ受講可)	2
	生涯学習論	2	宮崎を学ぶ	2
	博物館概論	2	大学生の就職とキャリア形成	2
外国語系	選択ドイツ語Ⅰ	2	選択ドイツ語Ⅱ	2
	選択フランス語Ⅰ	2	選択フランス語Ⅱ	2
	選択中国語Ⅰ	2	選択中国語Ⅱ	2
	選択韓国語Ⅰ	2	選択韓国語Ⅱ	2
	ペルシア語入門	2		
	◆医療英語 (ENP B I)	2		

- 注1. 適正なクラス規模にするため、科目によっては受講者数を調整する場合があります。
- 注2. 教員免許を取得しようとする学生は、日本国憲法を2単位修得しなければなりません。
- 注3. 同一名称の科目は、二度受講しても単位は1科目分しか認められません。ただし、同一科目名でローマ数字表記の違う科目はそれぞれ受講することができ、単位修得が認められます。
- 注4. 生涯スポーツ実践Ⅰ～Ⅳは、農学部ではスポーツ科学の1単位、工学部はスポーツ科学Ⅰ又はⅡの1単位、教育文化学部はスポーツ科学Ⅰ及びⅡの2単位を修得後、履修するものとします。
- 注5. ▲受講手続きについては後記の「◎異文化交流体験学習について」を参照してください。
- 注6. ★印の付いている科目は医学部医学科の必修科目、◆印の付いている科目は医学部看護学科の必修科目ですので、必ず履修してください。
- 注7. ■印の付いている科目は、1年次生対象科目です。
- 注8. ●印の付いている科目は、高等教育コンソーシアム宮崎の単位互換科目です。コーディネート科目の開講については掲示等で周知します。

教養発展科目の概要

本科目群は教養をより一層深め・広げることを目指すために設けられており、原則として自由に選択することができます。多くの科目がありますが、下の各科目のねらいを参考にして計画的に履修するようにしてください。各科目の詳しい内容はシラバスを参照してください。

[前学期]

系	科目名	講義のねらい
文化・社会系	宮崎県の経済と地域の活性化	宮崎県の経済と地域づくりの現況と問題点、課題について理解を深める。
	日本国憲法	憲法に関する基本的な知識や考え方の修得を目的とする。
	現代社会と基礎理論	現代社会の諸課題の中から、主に「ジェンダー」と「消費社会」に関する問題を取り上げて、「理論社会学」の方法に基づいて考察する。
	魚・家畜・草の文化論	畜肉・魚肉を生産・供給する立場から、草と家畜と人、魚と人との関わりについて、過去ー現在ー未来を展望する。
	産業と教育	わが国の組織・労働・教育の問題について人材育成を軸にしながら総合的に学習する。
	保健医療社会学	家族の病歴やあなた自身の健康増進を始め、社会全体に関わる医療制度や医療費の問題など、保健と医療の現代的課題を「社会学」の視点から考える。
	ワークショップ入門	学習の方法としてのワークショップを体験しつつ、これまで身につけてきた学習観を相対化することを志向する。
	身のまわりの生活論	身の回りの様々な生活空間における人間の感性について、色彩、音楽、ファッションなどの角度から分かりやすく解説し、人間の知的感性の育成を図る。
科学・技術系	化学と社会との関わり	めまぐるしく変化する社会や経済状況において人間が直面している環境問題や科学技術の高度化問題に着目して、化学的立場からその重要性について講義する。
	統計入門	データの整理の方法から簡単な統計的分析に至るまでの基本的な概念や方法を概説する。
	大気・海洋の流れ・波動	広大な大気・海洋の動きはどのような法則に従っているのか、大気・海洋の運動を力学的に扱おうとどうなるか、その基礎的な問題について学ぶ。
	音・光で考える物理学入門	音や光・色に関係した具体的な実例を取り上げ、「なぜ？」という疑問に対して基本的な原理から考察することを通して、自然科学の考え方を分かりやすく解説する。
	科学技術と私たちの生活	今日の科学技術における特に重要なキーワードである環境、バイテクノロジー、および新素材・ナテクノロジーについて、具体例をあげながら紹介する。
	化学入門 ー電子のいたずらー	原子の構造や分子のもついろいろな性質（形、色、化学反応等）を、分子の形成に関わり合いの深い電子の不思議な振る舞いを通して考える。
	微分積分学	数学の基礎として微分・積分に関する基本的な理論を理解した上で、他の科目にも必要な偏微分・重積分、さらに簡単な微分方程式について講義する。
生命科学系	遺伝子操作入門	遺伝子及び生体において遺伝子が機能するメカニズムの基本を習得し、さらに各種の分野で実際に行われている遺伝子関係研究や遺伝子関連技術を理解する。
	遺伝子とゲノム	遺伝子及びゲノムについての基本概念を学習し、基本的な生命現象と遺伝子・ゲノムの関係についての理解を深める。

	感覚と神経	感覚神経と脳機能を中心に学習し、さらに運動神経の仕組みを通して、感覚情報がどのような経緯を経て行動につながっていくのか理解する。
	生物研究入門	微生物、ゲノム、生理活性ペプチド、植物細胞、免疫、エネルギーなどをキーワードとするテーマについて、それぞれの背景と研究の最前線を紹介する。
	医学実験動物学	生命科学研究の発展に多大な貢献をしてきた動物実験について、その意義と歴史的背景を理解すると共に、動物実験を適性かつ科学的に実施するためのポイントを理解する。
複合・学際系	日本の自然と災害	日本列島の自然環境を踏まえながら、地震災害と津波災害を中心に解説する。
	フィールド体験講座	フィールドに触れ、生き物を育てることを通して農林水産業の現場と身近な環境について学び、生命の大切さを実感する体験によって感情的成長や身体的な発達を促すことを目的とする。
	フィールド体験学習指導講座	フィールド体験学習会や自然観察会を企画・運営するのに必要な知識と技術を学び、7月開催の「小学生のための自然体験教室」の企画・運営に参画する。
	異文化交流体験学習	海外の大学（協定校）に1週間程度短期留学し、協定校の教員による講義や学生との交流を通してその国の言語や文化の理解を深める。
キャリア教育・生涯学習系	生涯スポーツ実践Ⅰ	日常生活の中でいかにスポーツを習慣づけていくか、継続的に運動を取り入れていくかを実践的に学び、スポーツ活動の自立化を目指す。
	生涯スポーツ実践Ⅱ	生涯にわたる健康と体力の保持・増進のため、日常生活の中でいかにスポーツを習慣づけていくかを実践的に学び、スポーツ活動の自立化を目指す。
	ヘルスサイエンスー予防医学へのいざないー	病気とは何か？何がそうさせているのか？といった根本的な疑問に対し知識を提供し、どういった対処が必要か？を共に考える双方向の講義を行う。
	生涯学習論	生涯学習の概念・意義・現状などについての理解を深めるために、基本的な事項について学習し、自らが生涯学習者、生涯学習の支援者となっていくとする意欲を喚起する。
	博物館概論	博物館・美術館などの社会教育施設の設置の目的・機能・歴史・現状ならびに生涯学習社会や地域の中で果たすべき役割について講義する。
外国語系	選択ドイツ語Ⅰ	初級ドイツ語で学習した語彙と文法的知識を復習し、さらにその知識を中級程度まで深めると共に、学習内容を簡単な会話として実際に応用できるようにする。
	選択フランス語Ⅰ	簡単な日常レベルのフランス語会話ができるように指導する。
	選択中国語Ⅰ	中国語検定4級の合格を目指し、テキストを用いて初級文法の確認を行い、検定試験の過去問題・模擬問題や練習問題を通して試験対策を行う。
	選択韓国語Ⅰ	初級文法をすでに修得している学生を対象とし、中級レベルに進むために必要な語学力、コミュニケーション力を身につける。
	ペルシア語入門	アラビア文字（ペルシャ文字）と発音、初級文法の習得が中心となるが、イランの風土や文化、生活習慣、歴史に関することなどについても話をする。
	医療英語（ENP BI）	英語を話す患者さんとのコミュニケーションを想定して、看護師として最低限必要な医療英語の習得と、患者さんとの信頼関係の確立に欠かせない表現を学ぶ。

[後学期]

文化・社会系	中小企業と宮崎	宮崎県の中小企業の経営と地域社会における貢献について理解を深め、経営者の体験談を通じて自らのキャリア形成のヒントを得る。
	日本国憲法	憲法に関する基本的な知識や考え方の修得を目的とする。
	現代社会と基礎理論	現代社会の諸課題の中から、主に「ジェンダー」と「消費社会」に関する問題を取り上げて、「理論社会学」の方法に基づいて考察する。
	教育と人間	木育や食育、子ども読書推進、乳幼児精神保健などをテーマにとりあげ、学校教育以外での子育て・子育てを支援する活動から、子どもとおとなの関係が再生する条件を探求する。
	科学の社会学	科学を広く社会現象として捉え、特に科学者の社会的役割と科学の研究組織の成立と発展を歴史的な観点から、皆さんと一緒に考えたい。
	現代社会を読み解く	社会学という領域の見方・考え方を知り、学生諸君の個人的行動・事象を社会と結びつけて解釈し理解する楽しみを身につける。
	大学と学生	大学の制度および大学生の生活や意識について歴史と国際比較の観点から総合的に学習する。
	宮崎の郷土と文化 (コーディネート科目)	(宮崎県内の大学間で、参加大学が協力して開講する科目で、土曜日、宮崎公立大学で開講される。各大学教員の他、県知事や宮崎市長の話も聞くことができる。)
科学・技術系	水を主題とする一般化学	水の不思議な性質や水の存在と地球環境の関係、我々の生活と水の関わりについて学修する。
	原子と原子核入門	相対性理論や量子力学の基本理論を絡めながら、原子・原子核の構造や性質を分かりやすく解説する。
	統計学入門	看護学科で必須となる統計学について、記述的統計から始めて、具体的な推定・検定に至るまで統計学の入門を講義する。
	宮崎の産業と産学連携	宮崎大学を中心とした産学連携活動をそれに関係する産業界・工業・農業・金融機関等の組織の紹介と取り組みを客員教授の話を変えながら紹介する。
	産業を支える化学の役割	各種産業で使用される原料や材料などの技術開発及びそれらの製造プロセスや分析技術について最近の状況を解説し、化学の役割について紹介する。
	エネルギー環境学入門	エネルギー資源や環境問題について、経済や国政、環境破壊、地球温暖化、エネルギー資源の枯渇問題について総合的に学習する。
	情報とコンピュータ	コンピュータの歴史やコンピュータを支える技術について、主に講義する。
生命科学系	光と植物	植物が光という環境情報をどのように利用しているのか例を示しながら解説し、更に光の感知機構とそれが明らかにされた過程を辿ることで自然科学の考え方を学ぶ。
	染色体の行動と遺伝	生命活動の基本単位である細胞レベルにおける染色体の行動を考察しながら、遺伝現象と遺伝子の働きを理解し、興味・関心を持ってもらうことを目的とする。
	生命と病気	「ヒトの誕生から死まで」とし、臨床現場から得られた病気に関する知識をもとに自分の健康について考える。
	放射線と病気	医療やあらゆる学問分野で利用される放射線について、生物に対する放射線の影響、特に放射線による病気に関わる基礎知識を習得する。
複合・	日本の自然と災害	日本列島の自然環境を踏まえながら、地震災害と津波災害を中心に解説する。

学際系	フィールド体験実践講座	自然生態系とその保全活動を、実際に観察・体験し、野生動植物と人間との共生の視点から考えることを目的とする。
	異文化交流体験学習	海外の大学（協定校）に1週間程度短期留学し、協定校の教員による講義や学生との交流を通してその国の言語や文化の理解を深める。
	国際協力入門 —世界を舞台に活躍する—	国際連携センターの持つ国際協力に関する知見と実績を活かして、国際的視野を持たせ、国内外の舞台で自ら考え、学び、行動できる人材となる基礎を植え付けることを目的とする。
キャリア教育・生涯系	生涯スポーツ実践Ⅲ	「スポーツ科学」（必修）をさらに発展させ、より自主・自律的に運動文化を享受し、生涯にわたるスポーツライフを構築するための実習と位置付けて実施する。
	生涯スポーツ実践Ⅳ	生涯にわたる健康と体力の保持・増進のため、日常生活の中でいかにスポーツを習慣づけていくかを実践的に学び、スポーツ活動の自立化を目指す。
	ライフデザイン・キャリアデザイン入門	学内外の第一線で活躍する講師の話を通して、社会的責任・法の遵守・地域やより広い世界と関わることの重要性を学び、社会の一員として必要な知識・スキル・価値観の修得の必要性を知る。
	宮崎を学ぶ	さまざまな分野の講師陣による講義を通して「宮崎」について多角的に学び、全ての学生がより明確に地域としての「宮崎」を理解できるようにする。
	大学生の就職とキャリア形成	企業への就職希望の学生だけでなく、公務員を希望する学生が就職活動をするときに必要となる情報（知識）提供と、就職活動や就職後に役立つスキルの修得を目的にする。
外国語系	選択ドイツ語Ⅱ	選択ドイツ語Ⅰで学んだ知識をもとに、新しい表現方法（語彙と文法の構造）を学習し、その学習内容を実際に会話の中で応用できるようにする。
	選択フランス語Ⅱ	簡単な日常レベルのフランス語会話ができるように指導する。
	選択中国語Ⅱ	中国語検定3級合格を目標とし、目と耳による語彙力と基本構文のマスターを目指す。
	選択韓国語Ⅱ	これまで学んだ内容の実践的な練習を通じて、生きている韓国語を身につけることを目指す。

表 11 放送大学を利用した教養発展科目

系	前 学 期 開 講 科 目	後 学 期 開 講 科 目
外国語系	スペイン語入門Ⅰ スペイン語入門Ⅱ	スペイン語入門Ⅰ スペイン語入門Ⅱ

注. 「放送大学科目」は放送大学において特別聴講学生として履修し、単位互換が可能な科目です。受講手続きについては後記の「◎放送大学との単位互換について」を参照してください。なお、後学期科目は前学期と同じ科目であり、再受講しても単位は認められません。

◎ 異文化交流体験学習について

海外の大学との交流発展及び学生の異文化体験の重要性に鑑み、本学と大学間又は学部間交流協定を締結している大学との異文化交流体験学習に参加した学生に対し、教養発展科目「異文化交流体験学習」として2単位を認定します。

① 受講資格等

教養発展科目は原則として2年次に履修することとされていますが、この科目は全年次での履修を認めています。

受講に際しては受講者数の制限や旅費（個人負担）などが伴います。

② 単位の認定

成績は、「異文化交流体験学習のプログラム」に定められた講義・講演等への参加、研修中の学習態度、「体験学習プログラム」の修了書の提出及びレポート等により評価します。

③ その他

現在、「異文化交流体験学習」として実施する学生交流相手校は、順天大学校、嶺南大学校（大韓民国）、南京農業大学（中華人民共和国）の3校です。

平成24年度は順天大学校、南京農業大学を予定しています。詳細は、後日掲示にてお知らせします。

本科目の実施は、交流協定大学の合意が必要であり、必ずしも毎年度に開講できるものではありません。

◎ 放送大学との単位互換について

本学は、平成10年4月に放送大学と単位互換の協定を締結しました。この協定により、放送大学の平成10年度後学期開講分から、本学学生が単位互換科目を履修し単位を修得した場合には、教養発展科目（6単位が限度）として認定します。

ただし、単位互換科目の履修は有料です。

① 出願手続き

単位互換科目の履修を希望する学生は、一括申請の制度上、次の出願期間内に学生支援部共通教育支援室まで申し出てください。

ただし、1年次の前学期及び4年次の後学期の出願はできません。

学 期	出 願 期 間	履 修 期 間	単位認定試験期間
前 学 期 分	12月中旬から 2月上旬まで	4月上旬から 7月中旬まで	7月下旬から 8月初旬まで
後 学 期 分	6月中旬から 8月上旬まで	10月初旬から 1月中旬まで	1月下旬から 2月初旬まで

② 授業料（聴講料）の支払い

放送大学の受け入れ予定学生として決定した者は、単位互換科目履修に係る授業料（聴講料）を所定の銀行口座に振り込んでください。1科目につき11,000円（年度により変更あり）です。

授業料（聴講料）を支払った者が放送大学の特別聴講学生として決定され、後日、単位互換科目の印刷教材が送付されます。

③ 履修方法、通信指導及び定期試験等

ア. 単位互換科目の履修に際しては、当該学期の初めに受講科目登録をしなければならない。

イ. 単位互換科目の履修は、学生支援部共通教育支援室からビデオテープ、DVD等を借り受け、所定の期間内に学習するという方法によります。具体的な履修方法については事前に学生支援部共通教育支援室と打ち合わせを行い決定します。

ただし、自宅にケーブルテレビ又はCSデジタル放送の受信装置がある学生は、できるだけ放送大学の放送を直接視聴して履修してください。

ウ. 通信指導とは、決められた課題についてレポートを提出し、放送大学担当職員による採点・評価・指導を受ける通信添削のことです。各学期の途中でレポートを1回提出する必要があります。この通信指導に合格することによって単位認定試験の受験資格が得られます。

エ. 単位認定試験は、日向市に所在する放送大学宮崎地域学習センターで受験することになります。

④ 単位認定

単位認定試験を受験した結果、60点以上の者が合格となります。合格した科目について、本学では教養発展科目の単位として認定します。

⑤ 通信指導の再提出及び再試験の受験

通信指導又は単位認定試験において不合格となった場合は、再提出又は再試験をそれぞれ1回だけ認められます。

⑥ その他

放送大学との単位互換について不明な点がありましたら、学生支援部共通教育支援室に相談してください。

◎ 「高等教育コンソーシアム宮崎」単位互換について

本学は、平成18年12月に、宮崎県内の高等教育機関（11機関）と、相互の協力・交流・連携並びに各大学の特色ある授業科目の開放によって、教育課程の充実、学生の幅広い視野の育成、学習意欲の向上を図ることを目的として、単位互換の協定を締結しました。

この協定により、平成19年度から本学学生が単位互換科目（各大学等の教養科目とコーディネート科目：参加大学が協力して開講する科目）を履修し、修得した場合には、教養発展科目（6単位が限度）として認定します。

4. 共通教育の受講及び試験に関する手続き一覧表

学期	項目	提出(登録)先	願 (届) 提出(登録)期日等	摘 要
前 学 期	受講科目登録	共通教育支援室 (Web上で)	定める期日まで	受講する授業科目(集中講義を含む)のすべてをWeb上で登録すること。
	特別欠席願	所属学部 教務担当係	事由発生後速やかに	特別欠席が許可され、欠席の補填措置があった場合、欠席回数に加算されない。
	定期試験		7月下旬	
	追試験届	共通教育支援室	定期試験期間終了後 10日以内	特別欠席を許可された者について、定期試験期間終了後30日以内に担当教員が適宜実施
	定期試験・追試験 成績発表		試験終了後 1週間以内	Web上で担当教員が発表する
	再試験 (前学期のみで終了するもの)		9月中旬	受験できるのは、合否発表で「保留」となった者のみ
再試験成績発表 (前学期のみで終了するもの)		試験終了後 1週間以内	Web上で担当教員が発表する	
後 学 期	受講科目登録	共通教育支援室 (Web上で)	定める期日まで	前学期に同じ
	特別欠席願	所属学部 教務担当係	事由発生後速やかに	〃
	定期試験		2月中旬	
	追試験届	共通教育支援室	定期試験期間終了後 10日以内	前学期に同じ
	定期試験・追試験 成績発表		試験終了後 1週間以内	Web上で担当教員が発表する
	再試験		3月中旬	受験できるのは、合否発表で「保留」となった者のみ
再試験成績発表		試験終了後 1週間以内	Web上で担当教員が発表する	

平成24年度学年暦に基づきますが、変更されることもありますので所属学部の掲示板に注意してください。

5. 関係諸規程等

【1】宮崎大学共通教育科目履修規程

平成16年4月1日 制	定
----------------	---

改正 平成22年9月22日

(趣旨)

第1条 この規程は、宮崎大学学務規則（以下「規則」という。）第15条第1項の規定に基づき、共通教育科目で開設する授業科目、単位数及び履修方法等について定めるものとする。

(科目区分、授業科目及び単位数)

第2条 共通教育科目は、教養コア科目（共通科目・主題科目）及び教養発展科目に区分する。

なお、教養コア科目（共通科目）は大学入門セミナー、情報科学入門、英語、コミュニケーション英語、初修外国語及び保健・体育の6科目群で、教養コア科目（主題科目）は環境と生命、倫理と文化、現代社会の課題及び自然の仕組みの4科目群で構成する。

2 開設される授業科目及び単位数は別に定める。

(履修方法)

第3条 学生は、共通教育科目で開設される授業科目を共通教育科目一覧表にしたがって、各学部・学科(課程)が定める単位数以上を修得しなければならない。

(単位の計算方法)

第4条 共通教育科目で開設する授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって1単位とし、授業の方法に応じ次の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義については、15時間をもって1単位とする。
- (2) 演習については、30時間をもって1単位とする。
- (3) 実技等については、45時間の授業をもって1単位とする。

(受講年次、受講手続及び試験)

第5条 共通教育科目の各科目群で開設される授業科目の受講年次、受講手続及び試験については別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 規則附則第2項の規定に基づき、平成16年3月31日に旧宮崎大学及び旧宮崎医科大学に在学する者（以下「在学者」という。）並びに在学者の属する年次に再入学等する者については、この規程の規定にかかわらず、旧宮崎大学及び旧宮崎医科大学の規程等の定めるところによる。

附 則

この規程は、平成22年10月1日から施行し、平成22年4月1日から適用する。

【2】宮崎大学共通教育科目の受講及び成績評価に関する細則

平成16年4月1日
制 定

改正 平成22年9月30日

(趣旨)

第1条 この細則は、宮崎大学共通教育科目履修規程（以下「履修規程」という。）第5条の規定に基づき、共通教育科目の受講手続及び試験等に関し、必要な事項を定める。

(受講科目登録)

第2条 学生は、履修規程に基づき共通教育科目で開設される授業科目を受講するときは、受講科目を所定の手続により別に定める期日までに登録しなければならない。

(成績評価を受ける資格)

第3条 各授業科目においては、所定時間数の75%以上出席しなければ成績評価を受ける資格を得ることはできない。

2 各授業科目の受講に遅刻又は早退があるときは、3回の遅刻又は早退をもって1回の欠席とみなす。

(特別欠席の取扱い)

第4条 次に掲げる理由により欠席した者は、速やかに、所定の特別欠席願を在籍学部の教務・学生支援係、医学部にあつては学生支援課に提出し、欠席する授業の担当者に特別欠席を願い出ることができる。原則として、授業担当者は欠席の補填措置を行い、特別欠席を欠席数に加算しないものとする。

(1) 忌引

父母及び配偶者にあつては7日、子にあつては5日、祖父母及び兄弟姉妹にあつては3日とする。

(2) 天災

必要と認める日・時間。

(3) 学校保健安全法に定める感染症に該当するとき

医師の証明に基づく治療に必要な期間。ただし、7週間以上の長期にわたる場合を除く。

(4) 大学で主催する文化及び体育等の課外活動で、主催大学の副学長等から正式の派遣依頼があり副学長（教育・学生担当）が認めたとき、又は大学以外の団体等が主催するもので学長が認めたとき派遣依頼の期間又は承認した期間。ただし、回数及び期間については別に定める。

(5) その他やむを得ない事情と共通教育教務委員会が認めたとき

(定期試験)

第5条 定期試験は、前学期及び後学期に開講した授業科目について、公示のうえ実施する。

(追試験)

第6条 受験資格を有し、第4条に掲げる理由により定期試験を受験できなかった者は、追試験を1回に限り受験することができる。

2 追試験は、定期試験期間終了後30日以内に担当教員が適宜実施するものとし、受験を希望する者は、所定の追試験届を定期試験期間終了後10日以内に学生支援部共通教育支援室に提出しなければならない。

(成績評価の合否発表等)

第7条 成績評価は、各授業科目で定める評価基準に基づき、定期試験又は追試験の成績等で行われる。

2 成績評価の合否発表は、合格（60点以上）、保留（59点から30点まで）、不合格（29点以下）の3段階で行い、合否の結果は、当該授業科目の試験終了後1週間以内、試験を実施しない場合は試験期間の開始日から1週間以内にWeb上で発表する。

(再評価)

第8条 成績評価で保留となった者は、再評価を1回に限り受けることができる。

2 再評価は、再試験又は他の評価方法により行う。

3 再試験は、前学期を9月中旬、後学期を3月中旬に公示のうえ実施する。ただし、卒業期にある者については、原則として2月末までに再試験を実施するものとする。

- 4 再評価の合否発表は、合格及び不合格の2段階で行い、合否の結果は、当該授業科目の試験終了後1週間以内、再試験を実施しない場合は再試験期間の開始日から1週間以内にWeb上で発表する。
ただし、卒業期にある者の合否の結果は、原則として、2月末までにWeb上で発表する。
- 5 再評価は60点を上限とし、59点以下を不合格とする。

(授業科目担当教員不在の場合)

第9条 授業科目担当教員が転任又は退職等で不在となったときの成績評価及び再評価は、共通教育分野別部会及び共通教育協議会との協議により実施する。

(再受講)

第10条 成績評価及び再評価で不合格になった者は、第2条に定める受講手続きを行い、再受講することができる。

(成績評価)

第11条 成績評価は、90点以上を秀、89点から80点までを優、79点から70点までを良、69点から60点までを可、59点以下を不可の5種の評語で評価し、秀、優、良、可を合格とする。

(不正行為)

第12条 不正行為をした者は、学則により懲戒され、併せて当該学期の共通教育科目の成績評価は、すべて無効とする。

- 2 不正行為の事実確認は、別紙様式により行うものとする。

附 則

この細則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成22年10月1日から施行する。ただし、改正後の題名、第1条、第2条及び第12条の規定は、平成22年4月1日から適用する。

【3】共通教育科目の定期試験等の受験心得

平成16年4月1日
共通教育協議会決定

共通教育科目の受講及び成績評価に関する内規に定める定期試験、追試験及び再試験における学生の受験時の心得について、下記のとおり定める。

1 試験室への入室について

試験室には、前の試験の監督者が退室するまでは入室できない。

2 答案用紙について

- (1) 学籍番号、入学年度、学部名、学科・課程名及び氏名を必ず記入すること。
- (2) 答案用紙は、退室時に本人が持参のうえ監督者に提出するものとし、室外に持ち出すことを厳禁する。

3 遅刻及び退室について

- (1) 遅刻： 試験開始時刻から20分を経過した場合は、入室は認められない。
- (2) 退出： 試験開始時刻から30分を経過しなければ退室は認められない。

4 学生証の提示について

学生証は、受験中必ず机の上に置いておくこと。不所持の学生は仮受験票の発行を監督者に申し出ること。

5 用具等の持込について

机上には、筆記用具及び許可されたもの以外（携帯電話、PHS等を含む）を置いてはならない。

6 用具等の貸借について

試験中の用具等の貸借は、原則として許可しない。

7 その他

カンニング等の不正行為をした者は、学則により停学等の懲戒に処せられ、併せて当該学期の共通教育科目の試験及びその他レポート等の審査の成績評価は、すべて無効となる。

附 則

この申合せは、平成16年4月1日から施行する。

【4】宮崎大学における外国人留学生の履修方法の特例に関する細則

平成16年4月1日
制 定

改正 平成19年6月 8日

改正 平成22年9月30日

(趣旨)

第1条 この細則は、宮崎大学学務規則（以下「規則」という。）第47条第3項の規定に基づき、宮崎大学に入学した外国人留学生（以下「留学生」という。）の授業科目及び履修方法について定めるものとする。

(初級日本語・中級日本語・日本語科目及び日本事情に関する科目の授業科目及び単位数)

第2条 初級日本語・中級日本語・日本語科目及び日本事情に関する科目（以下「日本語科目等」という。）として開設する授業科目及び単位数は、次のとおりとする。

区 分	授 業 科 目	単位数
初 級 日 本 語	※ 初 級 日 本 語 I - A	1
	※ 初 級 日 本 語 I - B	1
	※ 初 級 日 本 語 II	1
	※ 初 級 日 本 語 III	1
	※ 初 級 日 本 語 IV	1
	※ 初 級 日 本 語 V - A	1
	※ 初 級 日 本 語 V - B	1
	※ 初 級 日 本 語 VI	1
	※ 初 級 日 本 語 VII	1
	※ 初 級 日 本 語 VIII	1
中 級 日 本 語	※ 中 級 日 本 語 I	1
	※ 中 級 日 本 語 II	1
	※ 中 級 日 本 語 III	1
	※ 中 級 日 本 語 IV	1
	※ 中 級 日 本 語 V	1
	※ 中 級 日 本 語 VI	1
日 本 語 科 目	日 本 語 I	1
	日 本 語 II	1
	日 本 語 III	1
	日 本 語 IV	1
日 本 事 情 に 関 す る 科 目	日 本 事 情 I	2
	日 本 事 情 II	2
	日 本 事 情 III	2
	日 本 事 情 IV	2
	日 本 事 情 V	2
	日 本 事 情 VI	2
	日 本 事 情 VII	2
	日 本 事 情 VIII	2

(※印は特別聴講生（交換留学生）、日本語・日本文化研修生に限って単位取得が可能である。)

2 授業計画上やむを得ない場合は、共通教育協議会の議を経て、前項の授業科目及び単位数の一部を変

更することがある。

(短期集中プログラム)

第3条 短期集中プログラムにおいて、日本語・日本文化コースとラボ・リサーチコースを開設する。

2 各コースの授業科目と単位数については別に定める。

(単位の計算方法)

第4条 日本語科目等及び短期集中プログラムの単位の計算方法は、15時間の授業時間数(初級日本語・中級日本語・日本語科目・ラボ・リサーチコースにあつては30時間の授業時間数)をもって1単位とする。

(単位の取扱い)

第5条 学部留学生が日本語科目等(初級日本語・中級日本語を除く)に関する授業科目を履修し単位を修得したときは、次の各号に掲げる教養発展科目及び外国語科目の単位に読み替えることができる。

(1) 教養発展科目については6単位まで

(2) 外国語科目(英語、コミュニケーション英語及び初修外国語の3科目群)については8～10単位まで

附 則

1 この細則は、平成16年4月1日から施行する。

2 規則附則第2項の規定に基づき、平成16年3月31日に旧宮崎大学に在学する者については、本内規の規定にかかわらず、なお旧宮崎大学の規程等の定めるところによる。

附 則

この細則は、平成19年6月8日から施行する。

附 則

この細則は、平成22年10月1日から施行し、平成22年4月1日から適用する。

【5】外国語科目の単位認定の取扱い

平成19年4月1日
共通教育協議会決定

改正 平成22年10月1日

本学学務規則第21条の規定に基づき、外国語科目の単位認定の取扱いについて、下記のとおり定める。

記

1. 認定する科目名及び単位数等について

文部科学大臣が定める学修（以下「対象とする学修」という。）を、本学における授業科目の履修とみなして認定する科目及び単位は下表のとおりとし、対象とする学修を取得した場合は、本学の成績に点数化した上、教養コア科目・共通科目の該当する外国語科目の単位に充てるものとする。

ただし、旧宮崎大学の平成12年度以前入学者に対する認定科目及び単位は、下表にかかわらず入学年度の学生便覧によるものとする。

学部区分	対象とする学修	認定科目	認定単位	
教育文化学部	実用英語技能検定（英検） 1級	英語D コミュニケーション英語D	2	4
	TOEIC 試験 730点以上		2	
	TOEFL 試験(PBT/CBT/iBT) 550/213/79点以上			
工学部 農学部	実用英語技能検定（英検） 準1級	英語D	2	
	TOEIC 試験 650点～729点			
	TOEFL 試験(PBT/CBT/iBT) 500/173/70点 ～549/212/78点			
全学部	フランス語技能検定（仏検） 4級以上	仏語D	4	

2. 単位認定の申請について

前項に定める対象とする学修を取得した者は、試験結果の証明書（英語においては入学以前・以後を問わない。フランス語においては入学以前に取得したもののみ）を添付の上、別紙により所属学部長に申請しなければならない。

なお、申請の流れについては、以下のとおりとする。

1. 認定申請書提出	学生 ⇒ 各学部長
2. 単位認定	教授会の議を経て、学部長が認定
3. 認定結果通知	学部長 ⇒ 共通教育部長 学部長 ⇒ 学生（申請者）

3. 点数化の方法及び成績原簿等の表記例について

(1) 点数化の方法

・英語D・コミュニケーション英語D

区分	換算方法
英検 (準1級以上)	準1級 ⇒ 85点 1級 ⇒ 95点
TOEIC (650点以上)	満点800点を仮定し、本学の100点に換算して点数化する。 (例：650点⇒81点[優]；730点⇒90点[秀]) ※小数点以下は切り捨て。また、換算結果が100点以上になる場合は全て100点とする。
TOEFL (PBT/ CBT/iBT: 500/173/70点以上)	[PBT]満点を610点と仮定し、本学の100点に換算して点数化する。 (例：500点⇒81点[優]；550点⇒90点[秀]) [CBT]TOEFLを満点215点と仮定し、本学の100点に換算して点数化する。

(例：173点 ⇒ 80点[優]；213点 ⇒ 99点[秀]) [iBT]TOEFLを満点87点と仮定し、本学の100点に換算して点数化する。 (例：70点 ⇒ 80点[優]；79点 ⇒ 90点[秀]) ※小数点以下は切り捨て。また、換算結果が100点以上になる場合は全て100点とする。

・仏語D

- 仏検（4級） ⇒ 検定合格書に記載されている点数
仏検（3級以上） ⇒ 検定合格書に記載されている点数に10点を加える。
ただし、90点以上の場合はすべて100点とする。

(2)成績原簿等の表記例

- ・成績原簿 ⇒ 【80：認定（優）】；【90：認定（秀）】
・成績証明書 ⇒ 【認定（優）】；【認定（秀）】

附 則

- 1 この取扱いは、平成19年4月1日から施行する。
- 2 旧宮崎大学及び旧宮崎医科大学に入学した者については、本取扱いにかかわらず、なお旧宮崎大学及び旧宮崎医科大学の定めるところによる。

附 則

- 1 この取扱いは、平成22年4月1日から施行する。

(別 紙)

外国語科目の単位認定申請書

平成 年 月 日

学部長 殿

入学年度 平成 年度

学籍番号

学 部
学科・課程

学部
学科・課程

氏 名 (自署)

私は、別紙のとおり（英検・TOEIC 試験・TOEFL 試験・仏検）において、本学の単位認定条件を満たす成績を取得しましたので、本学教養科目の外国語科目〔英語 D・コミュニケーション英語 D・仏語 D〕として認定していただきますよう申請いたします。

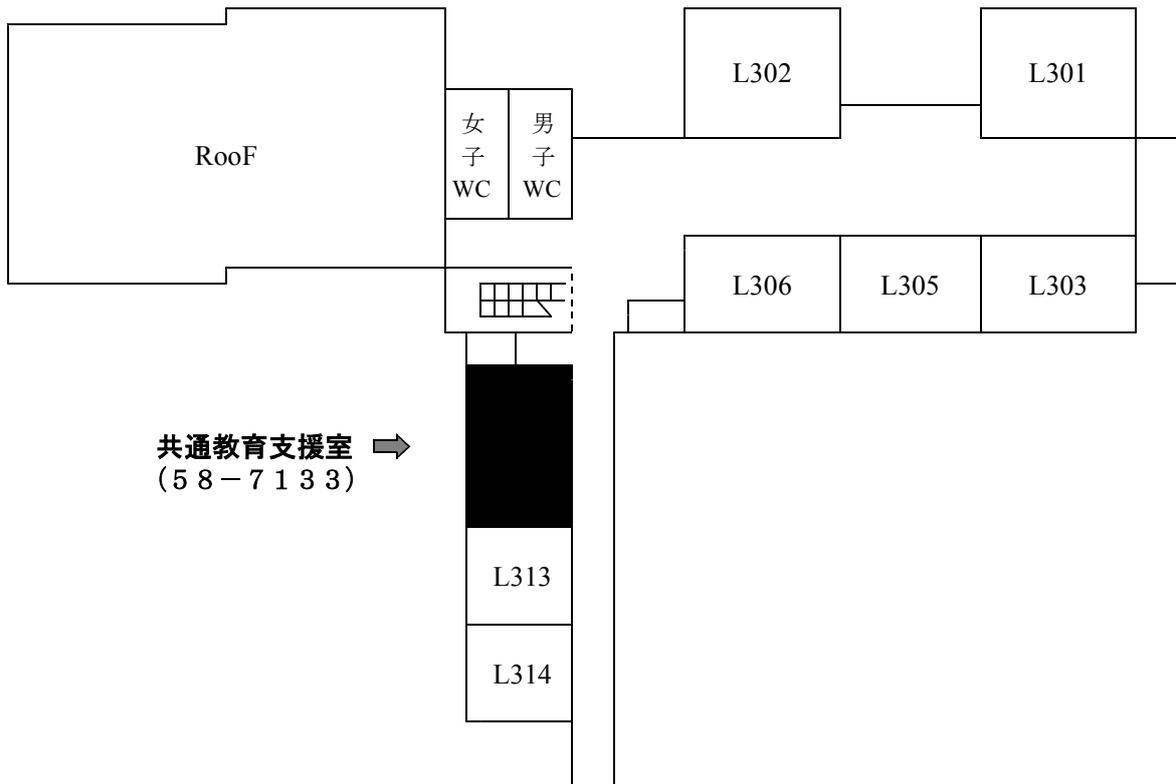
注1. 添付する別紙（証明書等）は原本を提出してください。

注2. () 内は、該当する箇所に○印を付してください。

6. 共通教育支援室の場所



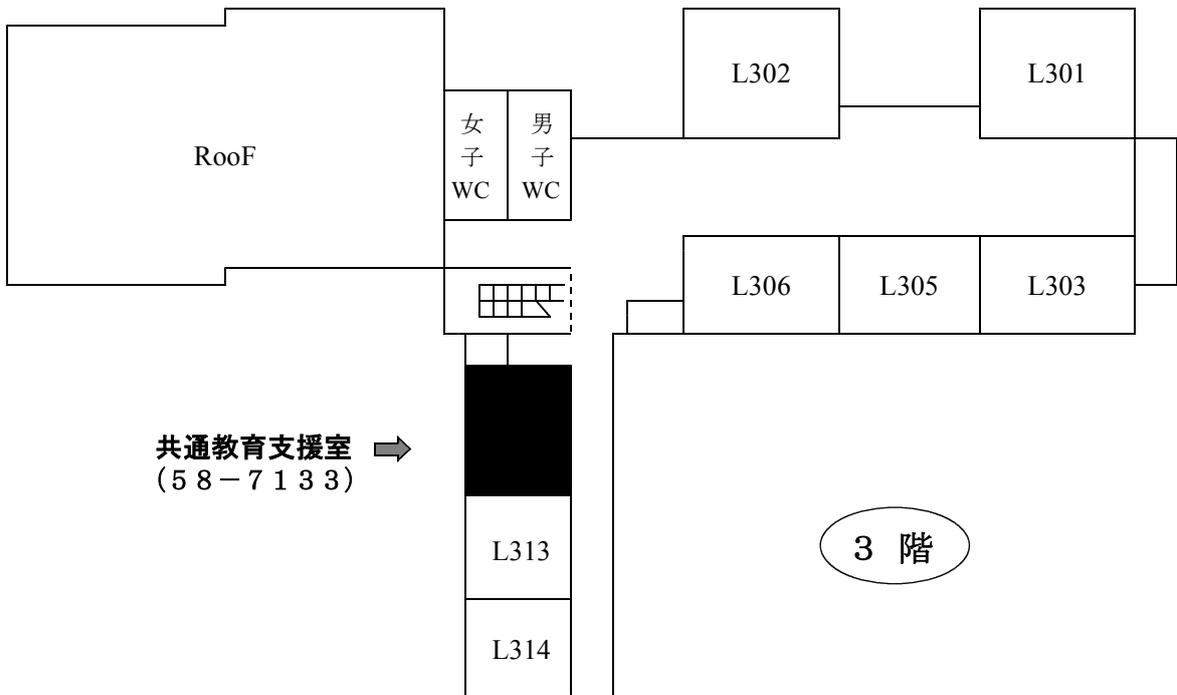
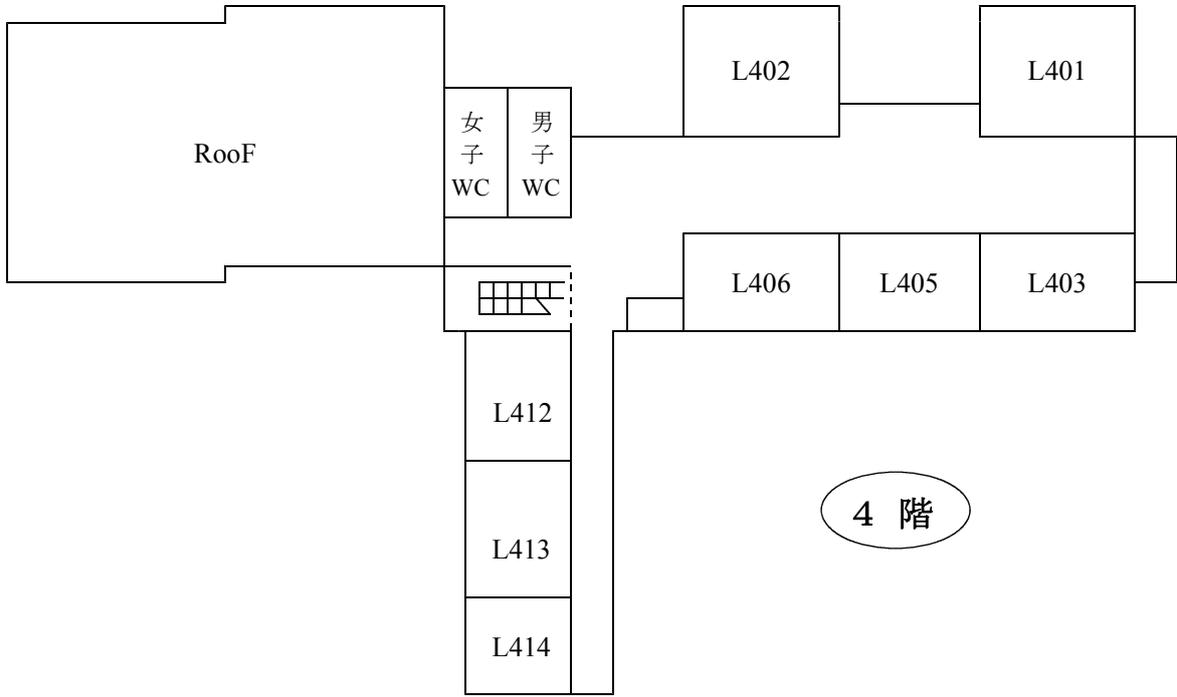
教育文化学部講義棟（3階）

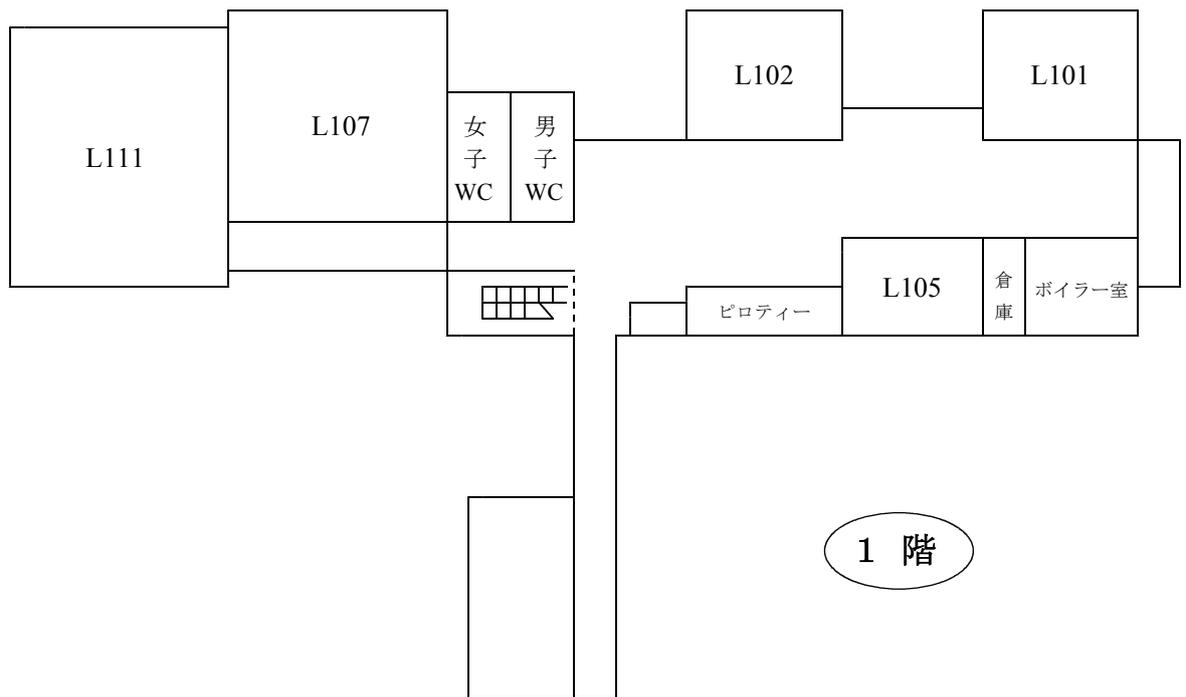
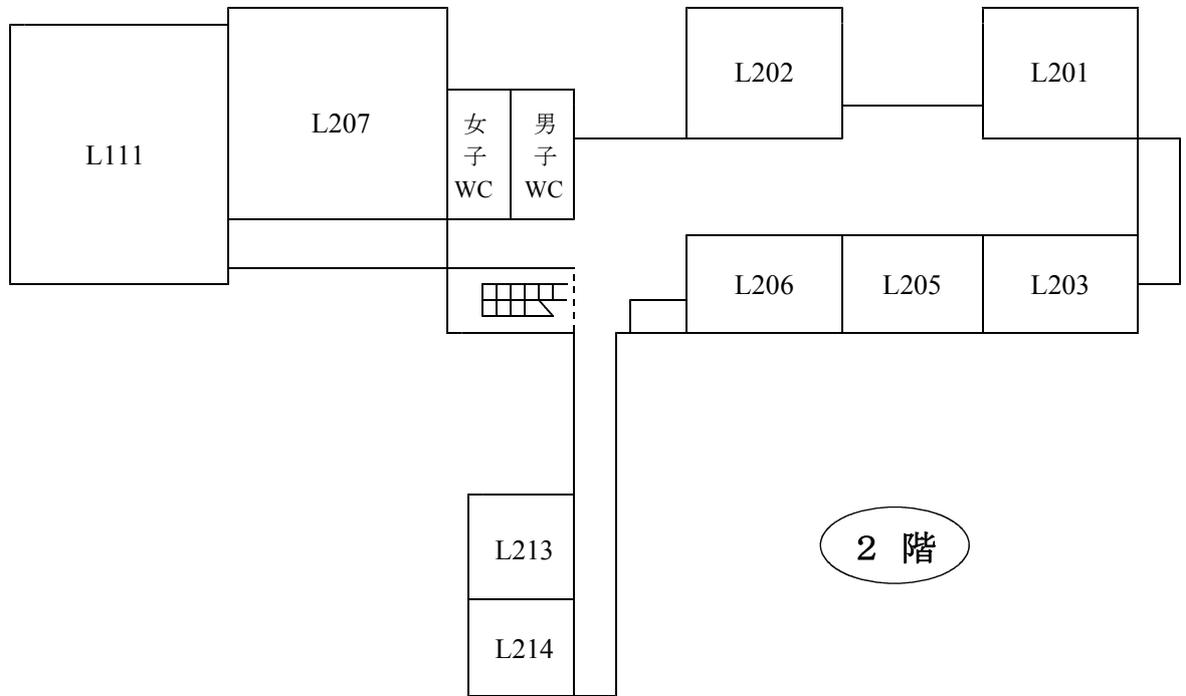


教育文化学部実験研究棟



教育文化学部講義棟教室配置図





7. 共通教育担当教員名簿

	氏 名	部屋番号	内 線	所属学部等
共通教育部長	酒井 正博	S 3 1 1	7 2 1 9	農学部
共通教育副部長				

担 当 教 員	部屋番号	内 線	授 業 科 目 名
---------	------	-----	-----------

【木花キャンパス】

教育文化学部			
伊勢野 薫	3 2 6	7 4 4 8	コミュニケーション英語
アマダ・ブラッドレイ	3 2 7	7 4 3 9	コミュニケーション英語
下條 恵子	3 3 0	7 4 4 2	コミュニケーション英語
井崎 浩	3 3 2	7 4 4 4	コミュニケーション英語
新名 桂子	3 3 3	7 4 4 5	コミュニケーション英語
アダチ 徹子	3 3 4	7 4 4 6	コミュニケーション英語
南 太一郎	3 3 5	7 4 4 7	コミュニケーション英語
坂口 佳世子	3 2 3	7 5 6 5	コミュニケーション英語
小川 さくえ	4 2 9	7 4 5 6	独語
杵渕 博樹	4 3 0	7 4 5 4	独語
アネッテ・シリング	4 2 8	7 4 5 2	独語、選択ドイツ語Ⅰ・Ⅱ
吉田 好克	4 2 5	7 5 6 4	仏語
上原 徳子	4 2 6	7 4 5 3	中国語
藤井 久美子	4 2 7	7 4 5 1	中国語、選択中国語Ⅰ・Ⅱ
得丸 智子	3 4 6	7 5 7 0	日本語
松永 智	1 2 4	7 5 5 4	スポーツ科学
玉江 和義	2 2 3	7 5 5 6	スポーツ科学
品田 龍吉	2 2 5	7 5 5 7	スポーツ科学
高橋 るみ子	2 2 9	7 5 5 9	スポーツ科学、生涯スポーツ実践
秦泉寺 尚	2 3 0	7 5 6 0	スポーツ科学、生涯スポーツ実践
根上 優	2 3 2	7 5 6 2	スポーツ科学

山北 聡	204	7510	環境を考える、宇宙・地球科学、宮崎の地質と自然景観
八ツ橋 寛子	505	7517	環境を考える、生物科学、光と植物
立元 真	705	7461	人間の心と行動
佐藤 正二	704	7458	人間の心と行動
竹内 元	C202	7432	子どもとおとな、ワークショップ入門、教育と人間
山田 利博	434	7435	日本の文学
山元 宣宏	433	7434	日本語と文化
石川 千佳子	F110	7533	美術と文化、博物館概論
葛西 寛俊	M130	7524	音楽と人間
竹井 成美	M217	7525	音楽と人間
伊波 富久美	T203	7539	暮らしを見つめる
山下 亜紀子	T202	7546	暮らしを見つめる
柏葉 武秀	534	7469	人間と倫理Ⅱ
伊佐敷 隆弘	532	7467	西洋の哲学
中村 周作	625	7474	風土・地域と人間、宮崎を学ぶ
山田 渉	540	7471	現代社会と歴史
中堀 博司	541	7472	現代社会と歴史
戸島 信一	628	7481	現代社会と家族
河原 国男	632	7487	現代社会と子供・青年
盛満 弥生	633	7488	現代社会と子供・青年
岩田 拓夫	537	7478	現代社会と政治
足立 文美恵	535	7476	現代社会と法
丸山 亜子	529	7569	現代社会と法
入谷 貴夫	627	7566	現代社会と経済
金谷 義弘	538	7479	現代社会と経済
鶴田 禎人	549	7568	現代社会と経済
北 直泰	404	7494	数学の考え方
藤井 憲三	406	7496	数学の考え方
谷本 洋	407	7497	数学の考え方

秋山 博臣	305	7506	物理科学、自然科学の考え方、音・光で考える物理学入門
中林 健一	608	7500	自然科学の考え方、化学と社会の関わり
野中 善政	206	7511	宇宙・地球科学、大気・海洋の流れ・波動
根岸 裕孝	623	7480	宮崎県の経済と地域の活性化、中小企業と宮崎
中川 律	536	7477	日本国憲法
檜山 平	730	7483	現代社会と基礎理論
境 幸夫	611	7501	水を主題とする一般化学
藤井 良宜	403	7493	統計入門
作田 俊美	307	7505	原子と原子核入門
村岡 嗣文	604	7499	物質の科学、化学入門—電子のいたずら—
湯地 敏史	T115	7552	エネルギー環境学入門、身のまわりの生活論
佐野 順一	T111	7548	染色体の行動と遺伝
大平 明夫	626	7475	日本の自然と災害

工学部			
塩盛 弘一郎	環境応用化学科	7309	環境を考える
出口 近士	社会環境システム工学科	7329	環境を考える
吉武 哲信	社会環境システム工学科	7331	環境を考える
大塚 浩史	工学基礎教育センター	7378	数学の考え方
辻川 亨	工学基礎教育センター	7381	数学の考え方
飯田 雅人	工学基礎教育センター	7380	数学の考え方
白上 努	環境応用化学科	7313	物理科学
五十嵐 明則	工学基礎教育センター	7374	物理科学
瀬崎 満弘	社会環境システム工学科	7333	物理科学
岡部 匡	機械設計システム工学科	7302	物理科学
川末 紀功仁	環境ロボティクス学科	7583	物理科学
佐藤 治	環境ロボティクス学科	7418	物理科学
西岡 賢祐	電子物理工学科	7774	物理科学
廣瀬 遵	環境応用化学科	7322	科学技術と私たちの生活
保田 昌秀	環境応用化学科	7314	物質の科学、産業を支える化学の役割

大島 達也	環境応用化学科	7321	物質の科学
田畑 研二	環境応用化学科	7347	産業を支える化学の役割、物質の科学

農学部			
高木 正博	田野フィールド ^o	86-0036	環境を考える
那須 哲夫	V204	7262	環境を考える
後藤 義孝	V403	7275	生命を知る
片本 宏	H204	7277	生命を知る
森田 哲夫	S620	7200	魚・家畜・草の文化論
入江 正和	S424	7202	魚・家畜・草の文化論
西脇 亜也	木花フィールド ^o	7789	フィールド体験講座
長谷川 信美	S420	7194	フィールド体験学習指導講座、フィールド体験実践講座
宇田津 徹朗	農業博物館	7256	自然科学の考え方

教育・学生支援センター			
武方 壮一	311	7981	英語
藤埴 智一	303	7978	産業と教育、大学と学生
高橋 利行	304	7429	生涯学習論
教育・学生支援センター（教育文化学部）			
櫛山 桐加	アドバザール ^o	7849	英語
金 智賢	435	7436	韓国語、選択韓国語Ⅰ・Ⅱ

産学・地域連携センター			
甲藤 正人	専任教員室	7950	宮崎の産業と産学連携
山田 裕司	専任教員室	7572	ライデザイン・キャリアデザイン入門、大学生の就職とキャリア形成

国際連携センター			
丸山 眞杉	センター長室	2744	国際協力入門 ―世界を舞台に活躍する―

安全衛生保健センター			
江藤 敏治	保健管理 医室	7 1 4 3	ヘルスサイエンスー予防医学へのいざないー 健康科学

フロンティア科学実験総合センター（木花キャンパス）			
片山 哲郎	3 0 9	7 2 6 7	遺伝子操作入門

【清武キャンパス】

医学部			
担当教員	所属	内線	授業科目名
南部 みゆき	英語	2 2 5 0	コミュニケーション英語、医療英語（ENP BI）
マイケル・ゲスト	英語	2 1 8 1	コミュニケーション英語、医療英語（ENP BI）
玉田 吉行	英語	2 1 8 3	英語、南アフリカ概論
横山 彰三	英語	2 1 8 2	英語、イスラム文化論、ペルシア語入門
林 克裕	医学教育改革推進	2 4 0 1	健康科学、生命と病気
柳 重久	第三内科	2 2 0 0	健康科学
鳥取部 光司	リハビリテーション部	3 1 7 1	健康科学
鹿嶋 光司	歯科口腔外科	7 3 0 0	健康科学
池田 哲也	神経生物学	2 1 6 5	健康科学、環境を考える、生物科学、感覚と神経
西森 利数	神経生物学	2 1 6 5	生命を知る、生物科学、放射線と病気 遺伝子とゲノム
板井 孝彦郎	生命・医療倫理学	2 3 2 4	生命を知る、人間の倫理と哲学
菊井 高雄	医療社会学	2 1 7 6	人間と自我、医療倫理史、保健医療社会学、 日本事情Ⅷ、現代社会と家族、科学の社会学 現代社会を読み解く
徐 岩	物質科学	2 1 6 9	物質の科学
大桑 良彰	数理科学	2 1 7 4	数学の考え方、微分積分学、統計学入門
根本 清次	基礎看護学	2 6 0 2	生命を知る

フロンティア科学実験総合センター（清武キャンパス）			
越本 知大	生物資源分野	2 2 7 2	生命を知る、医学実験動物学

非常勤講師	
河野 富士夫	独語
武次 玄三	独語
衛藤 恵子	独語
井上 修一	独語
竹川 昭男	独語
白石 敬晶	仏語
宮田 泰雄	仏語
ル・ストルジョン・ロイク	選択フランス語 I・II
関 黎明	中国語
王 廣慧	中国語
園田 美伽	中国語
山下 藍	韓国語
宮内 孝	スポーツ科学
立木 宏樹	スポーツ科学
永松 幸一	スポーツ科学
宮元 章次	スポーツ科学
正野 知基	スポーツ科学
百井 清之	スポーツ科学
徳地 慎二	コミュニケーション英語
笹谷 浩一郎	コミュニケーション英語
白坂 佳代	コミュニケーション英語
町川 和子	コミュニケーション英語
横堀 仁志	コミュニケーション英語
竹野 茂	コミュニケーション英語
マーティン・メイン	コミュニケーション英語
ティモシイ・オロニイ	コミュニケーション英語
横山・コリーン	コミュニケーション英語
クリストファー・マッサー	コミュニケーション英語
大塚 稔	人間と倫理 I
友安 一夫	数学の考え方
渡邊 譽	日本国憲法